



青砥藤細摸稜案卷之三

東都

曲亭馬琴編述



牽牛星茂曾七が青牛主の屍を棄てて帰る事

相摸國鎌倉郡小比子といふ村あり。由井濱の西に於て朝夷切通より

南に當りて山嶽とて名ある孤村あり。村高多古江川を左右にさすの

比子村に牽牛星茂曾七といふ農夫ありけり。ある日、綽號を牽牛星と

呼ぶくもの家小北壯の牛あり。又妻の専女八年ものりて、容止の醜

か、度様とてさうく織をば里人亦媚くさひて、この名をば負うけけり。その

家富みのあはれ、此の四圍あり。并曾茂八といふもの。ちう死に

か、で、同形を、胞見牙のろ共、縁一、うらるる。嫂専女がとて、

見方、あ、の、ろ、く、る、ろ、ふ、け、ま、は、曾、茂、八、と、兄、を、辞、し、別、居、と、て、腰、越、村、あり。

東都文庫

Handwritten calligraphy in cursive style, including the characters '家' (house) and '事' (matter), with several circular red seals interspersed.

Large handwritten characters, possibly '事' (matter) and '家' (house), written vertically.

式四郎と云ふ農家にて相識るものあるが、且く一室が家より、
 ようて、伴の言を承へ、言葉をうけて、こゝろを過せ、
 んども、いとむく、
 進みのあるふ、
 代人の食言、
 比子村より、
 某甲が妻あり、
 僅三年をうけて、
 夫とて、
 嫌ひて、
 るま、
 こゝろ、

るよ、
 婦と、
 どの、
 る、
 へ、
 禁、
 さ、
 る、
 睦、

程よ。比子の村精々。此の字平との壯俊ありけり。その身ひとりの
 ろれば定めたる宿由あり。彼此へ雇えて牛を牽とめて活業とせし
 りのありけり。茂曾七へまじりて。女は相譚よ。女は
 彼人あつじと。後しく。鶴の字平と。びよて。日か家よ。起臥さ。彼黄
 牛を牽ひけり。え。字平の筋骨逞くして。脊力人は。務ま。今。廿八
 歳あり。されば。青牛へ。北るれば。年。是より。茂曾七。押して。進退と。て
 主の隨意。牽まれば。も。黄牛へ。と。猛くと。動されば。人を。衝。弊あり。考。れ
 どの。字平。へ。牛を。牽と。せし。ぐ。暴牛。成。さ。畜。馴。との。を。ら。ん。で。
 新。多。の。の。ま。ま。ぶ。う。づ。佐。や。進。止。う。専。女。の。う。う。茂。曾。七。の。牙
 者。是。八。の。遙。ま。さ。う。た。る。よ。人。を。獲。う。と。て。云。う。ま。う。く。使。ひ。り。り。
 是。る。程。よ。と。も。暮。て。春。の。孫。生。の。と。多。う。う。人。有。一。日。茂。曾。七。の。考。を。

牽て七里濱よ。赴き。檀島の辨財天へ。詣り。旅客。級。系。せん。と。て。日。一。り
 暮。々。ち。海。濱。を。徘徊。する。ふ。の。日。へ。特。よ。幸。あり。て。半。後。の。駄。賃。の。り
 せ。次。る。日。に。困。り。果。て。後。牛。を。牽。つ。由。井。濱。の。か。え。あ。ふ。忍。地。背
 後。よ。人。の。り。て。その。牛。よ。ま。づ。く。等。それ。戻。牛。る。ん。あ。の。物。付。せん。と。び
 ち。る。級。系。曾。七。勝。く。ん。う。ま。ぶ。と。且。別。別。人。る。ん。若。宮。巷。路。の。賣。ト
 者。よ。夏。の。翁。と。呼。ぶ。の。も。原。の。翁。へ。本。貫。の。定。り。る。年。の。餘。或。ハ
 七。十。或。ハ。百。歳。あり。ん。ど。い。の。の。あ。ま。い。も。こ。こ。狐。向。ハ。只。忘。ま。う。と。の。ミ
 考。て。告。ぐ。先。代。最。明。寺。殿。執。権。の。比。ハ。鶴。岡。若。宮。の。下。祿。宜。る。し。か。年
 衰。る。級。の。て。神。職。を。辞。し。若。宮。巷。路。に。退。隠。し。て。賣。ト。と。り。し。又。春。の
 比。海。ま。づ。つ。の。日。あ。七。里。濱。出。て。貝。と。拾。ひ。都。人。の。家。果。よ。瑞。南。と。り。て
 人。食。見。の。翁。と。呼。び。り。たり。當。下。翁。ハ。茂。曾。七。と。呼。び。し。ま。よ。は。公。の。年

七の
ほ
貝の
青牛と
借る



さめ牛

何如へ牽めてゆくよ。あまのふも
足さくらんあつ。此拾貝を
あて若宮巷踏まや遣り。このふの
風よ吹よせられてや。あまのふ貝の
多くるふ老の非力をさくさく
捨つらん拾ひよけとこれゆく
あまのふあまのふあまのふ欲せ
奪へその仇の刺をさくさくと
世の常言は「あまのふ」といふ
笑つ相譚は「あまのふあまのふ」
と。あまのふあまのふあまのふ



茂曾七

物への糸もこの箱が。その名
あえて九人あまのふあまのふ
一強あまのふあまのふと強く定め
貝も靴の前輪あまのふあまのふ
あまのふ若宮巷踏へ追ひあまのふ
あまのふあまのふあまのふあまのふ
あまのふあまのふあまのふあまのふ
あまのふあまのふあまのふあまのふ
あまのふあまのふあまのふあまのふ
あまのふあまのふあまのふあまのふ

るが買もせんが他人は考るる後八ふ彼牛を賣のひいひひひる
 所為をこそ價のつむり軟獲のひいひひひるをこそ出せむ
 あてのめて立つから俄頃又終令せしとるれば彼が懐ふ物のほ
 お賣るものあり給が便う死に残りて身よとて牛を六直よ牽しとせぬ
 五七月が短あひ必あつじこのを疑ふとらつといへ専女の眉根をを
 うとてや。おん身が為の身あることも見とて救つておひひらじ
 腰越村ふありるから其百年の直とも絶て下しむ者執せぬ
 志れ之故もとて牛と違ふてあつての弥勤の世まで結ぶとてその
 りて身よとて翌つとあて彼知よ赴きり遠るといひん牛を牽りて
 2 ありり彼者ハコ今人毎ふ養ぶるは死の死賣るといひつら
 買ふ人と懸ありる人損して後悔しぬるといひつら火を燒つる
 字平の

藤組の平おるが彼牛を腰越より復して吾儕ふ賣じぬ人
 價ハ私主があらふとて伯常して進せん人の只正直がうたといふ
 物より其甘き和郎あてありけりとなふ左ふ扱されども養者
 うら笑ひて居るりりりかくて翌旦も女の常よりも起て良人
 いそじ腰越村へ赴きて牛をさう復しぬると勸まども養者
 せど原彼牛を賣るといひしとる利欲の為ふあは只禍を避んと
 小よや才が腹らうくて價をりて身よとてあはれに字平よ
 不祥のものを才が家子養ふ至て福とあるとりのやあふんと
 与一のいそ價を論ぶと今も黄牛ひとらるるぬ字平の暇を
 黄とて吾儕が牽べれるなり彼人を呼ぶといひばも女の良人の

顔とほくぐとうちりちりり、聖おん子とやらん。聖人とやらんは、
 かくまふ欲とるまてむひとふなごめのみをさういひあへ侍らう秘と
 字平ふとら牙の暇とむじもあへ使るたとらる。彼黄牛へいと暴く
 かん牙かてあつてぬよあふごや加旗の春はさくお持はつとて
 籠居の目の多かる彼人るの活業の便著失ふとらやあん只
 代牛を買うてそととん牙が牽あつて何の苦あつと信やう
 凍まはる者七段を左にようち掉宜の所理りおぬれど原字平を
 雇一とハ牛二頭ある左こまうお今黄牛ひとりありとて更代牛
 と求めて人と雇つてその費速あ補ひがじ又彼黄の暴くとも。それ
 年未牛とが牽あつてふおとらあふと。物倍せ水もあつと人一
 とらひひがじ。あつて禁めあつると叮嚀おひひ諭。さそ字平を咄びて

おりよりさいひまじし定る賃残の外ふ二ヶ月の足をすてこれとよへ
 牙の暇ととせせくが字平の家と妻の狗のどく俄頃困てせんぬるけれど
 強てさんともしひがけまじ村積を知らるなとら某甲が字平あつて且く
 ち臥臥知ととめて又一句むくつととせせども腰越村より青耗るけとバ
 ち女へ毎月小曾養ハが陰言をいひ止む可情牛を産つておとら
 めあひらあるととむ純さ亦おとらんとと置くしつらゆらうさけま
 有一日辰る七の曾養ハ拜おたて婚姻の慶賀をも演又青牛の價をも
 とさんとひてかづそのはとと女ふゆえまじ酒一瓢と乾魚一籠を
 黄牛の穴お拵り著てこま強牽つて宿所を出し千の貝吹とるるは
 ちつらあこの日貝の箱の垣のどく海濱へ赴き彼此と徘徊し貝を拵る
 とらんま違彼着る浪打際ふ今入水あつと人あ打久と浪小拵

よせふれ。又ひく潮を揺さげられて。浮ぬ
 沈ぬ。あつひり。吐嗟とどろりまじり
 よろろ。辛じて。こまを引揚。忙しく。
 腰に著る皮囊。ゆる。准依の定心丹
 とどろし。出。かく死人の口中へ塗つけて。
 領ふ。こま。喉。び。活。も。ど。も。野の水。腹
 中へ入らば。茶力のさぐ。べう。も。あ。ら。ん。
 さ。い。つ。ふ。して。水。を。吐。せ。ん。と。あ。ら。ね。急。務
 ぞ。と。り。合。川。の。か。ま。り。一。匹。の。牛。い。ぞ
 子。け。り。八。翁。こ。ま。を。見。て。大。に。不。飲。び。
 九。瀬。死。の。人。水。野。吞。ら。る。と。吐。さ。る。あ。ら。



牛

牛



牛の死散
池子村

牛の背上へ横臥て。死人の腹を牛の
 背に合。徐々牛をあらうと。れ。バ。腹
 中の水。あ。の。づ。ら。あ。り。の。こ。ま。の。餘。の
 良。方。な。ら。ば。あ。り。と。い。ふ。も。或。は。老。て
 づ。か。ふ。か。あ。ら。ん。と。或。は。海。濱。ふ。り。て。茶
 種。を。求。ふ。す。ゆ。主。を。雅。夫。と。い。ふ。孫
 ども。彼。牛。の。を。あ。ら。う。と。て。あ。ら。う。天。の。人。を
 助。る。飲。奇。奇。の。と。歎。唱。し。又。忙。し。く
 走。り。あ。ら。て。牛。を。海。邊。に。牽。ら。う。ん。死。人
 と。担。人。ん。と。して。再。び。驚。た。奇。奇。の。我
 今。の。人。を。ん。又。の。牛。を。ん。ら。う。か。ら。れ

のぬる比の濱より。夥の貝をつひはして若宮巷路へ送りし。牛飼の
 とのこゝろその人横死の相ありて禍。既よ身あつたんとする所あらうら
 曩よいよそのはしを告げども。悟らばて溺死せり。と其お腹は因果
 なる飲ありむと。と独り。遂は養曾七が死骸を牛の脊に繋ぎて
 その牛の歩は任し。彼らあを吐て後よ。又せん御由あり。とひひく。又
 又濱邊と彼此と貝と拾ふと申選はして今んを。うた比の比とく。
 牛のゆく方とんく。何れへかたうけん目のなるん得ん限もく。ん
 といふ濱より牛の絶てんえん。そんかえん捨ん。とて由井濱まで
 跡を追ひつ。かけどもく。影もせんと天に結陰て雨とくくと降そく。ふ
 彼が宿所とまらば。していつと追つたげぬ。とて辻町のわくもたつ。市店軒を
 つらねれば必識する人もあり。彼が妻よは告りやせん。申下刻は降る

雨の必とあせぬりの道のぬるのるた間よ。まよりをやぬんとて。
 塗塗の蜘蛛びそえ若宮巷路の菴まで。雨は追きてまりけり。

青牛の下

腰越村の曾屋八のぬる比戸塚の牛市へおれたる。あまふ兄養曾七ふ
 撞見て去年よりの疎遠と勅解る。あひの外小養曾七がと後とけ。ひ
 牽てぬんとする。青牛とて獲させ。あう。飲び彼牛を追ひつ宿所
 小ぬり。養又式四郎。女房小動。如此このより。奴若七とて。養又由
 妻も飲ぶとたう。あ。奴の腹ろく。て同胞疎遠するま。とて。いつ
 まるさてあ。と。へ。難ひ。り。ん。れ。和殿由一家の主。り。あ。あ。と
 よりこそ。ゆ。て。彼此の。り。ど。も。あ。え。ま。し。牙。の。怠。慢。と。勅。解。べ。と。て。

加梅あけぼの 乃のか家いへふ牛うしを喪なくひつとて。受うて。かゝる逸物いづつかものと情なさけと由よしせど。牽ひして
 所ところじしめふの操わざいと有ありが。これ合あははる。現いま我われも人も。二親ふたおやの死し後のちと。
 見みかふまゝと。ののるひま。と妻つまと娶めとつ。夫つまこよつ。おのつ。雷かみなりと。夕ゆふま
 至いたりて。おのつら。踏ふく。動うごも。それ。舌かたはら長ながき。婦あんな人は。中なかつ垣かきと。え。れ。た。
 見みの却かへ才さいを情なさけと。か。の兄あにと。踏ふく。おの。世俗よひとの惑まどひ。ら。嫂あはねの。と。ま。ん。く。も。
 あれ。難たが。と。それ。の。原もと。代しろ。人ひと。何なにの。つ。く。とも。空そら耳みみ聳そまりて。合あははる。見みか。ふ。背せ。を。こ。の。ま。る。よ。
 ち。ら。ん。あ。の。時とき。目め。と。る。と。些ちの。芭あしな道みちと。と。の。りて。池いけ子こ村むら。赴おもむき。て。牛うしの。價あひ
 とも進まじ。の。と。叮おん嚙かふ。競あそ。給たま。せ。ば。看み。後のち。八やち。の。比ひ。じ。て。身みの。怠おとろ慢ろと。後悔ごうかいし。
 有あり。べ。さ。り。の。の。見み。ら。う。と。と。く。ん。ば。ふ。ま。び。感かん。涙なみだ。を。拭ぬぐ。ひ。ら。う。ら。牙あは。と。起おこし。牛うし。と。
 牛うし。菟う屋や。ふ。牽ひ。入い。ま。て。物もの。と。食く。せ。け。ま。の。夕ゆふ。餐あけ。食く。べ。る。と。さ。う。ふ。い。く。長なが
 途と。は。疲つか。勞う。ら。う。ば。今いま。骨こつ。の。へ。ん。争あ。り。臥ふ。さ。う。り。あ。りて。次つぎ。の。日ひ。曾そ。後のち。八やち。の。池いけ。子こ。村むら。へ。

やん。と。て。芭あしな。道みち。の。准のり。彼か。と。れ。ば。式しき。四よ。郎らう。が。い。や。う。と。れ。今いま。朝あさ。曆れき。と。見み。ら。う。ふ。
 日子ひがら。甚し。と。後のち。か。の。兄あに。公こう。の。家いへ。へ。と。も。と。の。女むすめ。婿むこ。と。あ。り。て。後のち。に。あ。め。の。
 見み。来きた。ら。う。ふ。け。の。の。ひ。ま。り。の。め。ん。來きた。ぬ。る。廿にじゅう。八はち。日にち。へ。じ。の。日ひ。あ。て。う。ら。う。ら。う。は。
 と。あ。り。む。じ。よ。う。又また。の。日ひ。ふ。せ。し。の。の。永なが。く。遠とほ。く。と。い。へ。隔ひら。壁かべ。去さ。と。を。ま。る。る。
 べ。け。ま。と。信まこと。や。ら。ふ。禁こころ。ま。じ。ば。曾そ。後のち。八やち。の。日ひ。よ。は。従したが。ひ。て。廿にじゅう。八はち。日にち。ふ。定さだ。め。ら。う。廿にじゅう。七しち。日にち。の。
 夜よ。ふ。至いた。り。て。親おや。又また。式しき。四よ。郎らう。率そつ。中ちゆう。あ。り。て。偏へん。身み。麻あ。本ほん。と。い。ふ。と。あ。り。の。む。と。夫あんな。婦むすめ。
 と。ま。よ。の。鷺ささぎ。と。意い。多た。ひ。て。曾そ。後のち。八やち。の。日ひ。由よし。師し。許ゆる。ま。り。ゆ。れ。小こ。動うご。の。父ちち。の。枕まくら。方かた。を。誰たれ。
 暮くれ。看けん。病びやう。と。違ちが。ひ。て。夕ゆふ。の。日ひ。由よし。教しやう。を。と。る。と。後のち。に。式しき。四よ。郎らう。が。中ちゆう。風ふう。些ち。と。
 と。う。ふ。け。ま。と。起おこ。臥ふ。由よし。自みづか。在あ。り。て。物もの。の。か。と。も。あ。り。の。ふ。れ。と。ま。る。ら。う。ら。う。ら。う。ふ。後のち。
 青あお。牛うし。動うご。と。れ。ば。繩つな。と。脱ぬ。て。ま。り。土つち。東ひがし。の。濱なみ。を。へ。と。と。あ。三さん。度ど。よ。あ。り。ふ。い。

ちつれども。若者ハハヤ、追留て牽戻しつゝあつゝ。この牛はく。ワ
 別主バ故主と慕ひて池子村へ帰るとさるふこそ牛は思を去る
 めの紙。この却思を去る去年より。兄は遠離。今更彼を去る
 と。さるらつたつた。左障りて来て。果は。さるらつたつた
 けや来る。羽子のやめんとして。今へ恨て。と推量。た
 狗若くて。又三日と。彼牛亦繩を脱て。出よけ。この
 日ハ特。或四郎が容体。已終く。さるらつたつた。小動も。これと
 その夕。まよ。驟雨のい。降る。牛の濡。このやと。小動の忙。牛
 牛菰屋。よ。たて。ん。牛の。され。と。慌忙。良人。如此。と
 と。若。さ。へ。と。笑。あ。と。袋。取。て。被。濱。追。め。た。つ。追
 追め。た。つ。さ。へ。向。ひ。よ。る。牛。あり。原。来。が。牛。兩。は。ち。を。追。て。追

ち取て。さ。と。さ。と。さ。と。足。も。と。近。く。あ。る。隨。て。取
 日。青。牛。あ。の。と。黄。牛。あり。鞍。の。前。輪。ハ。一。瓢。の。酒。と。一。籠。の。乾。魚
 と。著。し。主。の。追。て。あ。る。と。て。矢。度。牽。留。て。且。く。結。ど。も。向。ひ。よ
 人。由。又。は。と。この。牛。を。と。同。居。し。と。た。日。が。年。來。牽
 する。牛。あり。この。牛。を。と。再。び。怪。る。海。主。在。て。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の
 日。來。が。あ。る。紙。結。ど。び。と。さ。へ。と。家。を。出。ひ。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の
 頃。は。あ。つ。て。坐。や。り。て。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の。牛。の。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の
 ち。の。ぬ。も。あ。ん。ど。ら。ん。兩。が。あ。る。ら。つ。た。つ。た。の。牛。の。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の
 この。牛。を。牽。入。し。て。結。め。た。と。ひ。と。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の。牛。を。牽。て。さ。る
 妻。の。小。動。も。如。此。の。よ。と。あ。つ。た。つ。た。の。牛。を。牽。て。さ。る。ら。つ。た。つ。た。の
 曲。突。と。焼。つ。け。て。實。は。縁。の。殺。し。と。夫。兄。と。結。ぶ。日。ハ。中。百。番。本

けしこと。彼人の来む。さつやく。さうねら。まぬと。ありと。と。夫婦。よ
 と。やん。か。や。あ。ん。と。と。終。夜。結。ふ。け。ま。ど。な。曾。七。の。を。病。ふ。な。り。
 由。井。の。海。ま。ふ。溺。死。せ。ぬ。こ。の。牛。が。次。月。子。あ。く。代。子。村。へ。な。り。こ。の
 その。曉。の。夢。ふ。ふ。曾。七。ハ。夫。婦。ハ。ま。ま。さ。り。ら。り。わ。く。て。天。中。の。時。で。
 旭。ハ。海。より。昇。ま。り。も。夫。婦。が。疑。ひ。る。母。を。ま。ま。と。さ。る。な。ハ。い。と。い。ふ。
 兄。が。う。入。り。ま。か。ま。ば。か。り。て。病。を。や。と。さ。る。お。う。ら。ま。の。あ。ま。う。親。父。式。四。郎
 が。病。著。一。入。重。う。さ。る。ふ。え。ん。さ。る。ら。て。遠。く。の。出。が。じ。人。を。雇。て。る。く。も。
 事。の。や。を。問。せ。ん。と。さ。る。ふ。け。こ。の。の。農。業。漁。捕。の。を。ま。る。死。ね。る。は。
 雇。ま。え。ん。と。い。ひ。の。の。ほ。の。の。み。と。さ。ひ。や。つ。こ。の。目。由。又。空。く。暮。し。と。
 夜。の。ち。や。五。更。の。比。る。じ。捕。の。兵。士。五。六。人。字。平。を。ま。ま。た。て。式。四。郎
 向。屋。の。の。も。り。ふ。窺。ひ。よう。既。ま。る。な。ハ。が。家。に。ま。る。を。開。窺。へ。ん。の。子

礮と。放。て。ぞ。と。と。乱。れ。入。り。兄。を。敵。て。牛。を。奪。ひ。腰。越。村。の。曾。七。ハ。
 索。を。被。ま。と。海。ま。ま。小。動。が。周。章。の。い。が。さ。さ。り。式。四。郎。も。臥。あ。ら。う。こ。の。声。を
 受。て。い。く。驚。き。死。の。う。ん。と。と。れ。ど。も。香。房。と。起。ん。と。さ。る。不。邪。の。あ。ら。う。と。
 進。退。さ。ず。突。け。曾。七。ハ。あ。ら。う。く。不。犯。せ。罪。の。の。現。と。う。ら。も。騷。が。た。
 頼。と。著。何。と。仰。ゆ。ぞ。元。来。娘。の。某。る。ま。ま。城。の。道。の。あ。ら。う。と。推。婆
 が。悪。と。う。れ。と。い。ひ。る。ふ。と。兄。を。殺。し。牛。を。奪。ひ。と。う。ら。の。あ。ら。う。と。食。糧。ち
 の。み。飲。人。と。い。ひ。の。や。ゆ。り。ん。と。い。ひ。せ。も。果。ど。捕。の。の。兵。士。前。後。左。右。ふ
 眼。と。瞪。し。腰。越。村。の。式。四。郎。が。女。婿。曾。七。ハ。を。搦。捕。ま。と。鎌。倉。殿。乃
 仰。と。奉。り。の。の。青。砥。尉。の。下。知。ふ。う。り。て。走。向。う。る。我。們。が。皆。懐。こ。の。ん。や。
 人。と。さ。る。と。あ。ん。や。大。膽。不。敵。袴。の。の。盜。賊。猛。と。な。は。か。と。さ。る。の。後
 三。寸。不。亂。の。香。房。の。て。陳。ど。と。も。正。し。死。證。人。と。さ。る。の。と。指。示。せ。ん。字。平



牛
牛
牛
牛

かぐよと出せしむる者八。と汝のむら村ふ人とのむら。こは
 ぶぬへうとまう。汝の六七歳のころより。盗むものありつるはよきと
 おれ今面うふん。盗む二ツひりん。汝嫂ふころ紙くけて。そのまの神
 をぬぬあう。恨そ。盗むの物を搦搜て。兄が家紙逐電し。その腰越村へ
 糸を穿しん。暖くと式四郎が女婿とありて。寒日あふ布子を襲。暑
 と死の草衣を被て人る。その活業のまこと。兄が物を返さんと
 せど一年の身の中絶れど。青牛七の佛が終りて。汝がまはなまう
 債もせど。そがわおる。日汝延明寺の衞衞み。兄は撞見
 そは。又青牛七をとり。刺青牛を畧奪て。遠く返す。こ
 まうれど。青牛七の性純さりの。只理と述て青牛を
 復さんと。ひら。家よの黄牛小酒穀を肩し。一昨の日汝が婚姻の

慶賀と弄て。へま。汝又一層の悪念紙。被りて。被黄牛をも
 奪ひとん。為小兒。青牛七を猛殺し。風雨の烈し。糸紛て。その死骸
 を。青牛小負し。海邊に出。竊ふ水底に沈んと
 其の。天眼明し。神由。彼牛忽地走り。後
 主の屍を肩から。喘々。池子村に及び。その黄昏と死のまのり。
 これの。熱傷。これ。その光。紙。こ。の。教。る。
 夜の。此。彼。の。汝。が。精。せ。の。
 昨夜。牛。蔬。屋。を。張。果。を。青。牛。七。
 黄牛。繫。ま。て。こ。ま。の。青。牛。七。の。教。え。の。青。牛。七。
 海。に。沈。ら。ま。し。と。牛。八。却。人。は。務。む。主。の。亡。骸。を。見。
 ら。推。量。し。去。年。より。青。牛。七。の。秘。を。見。

お利根巻三

彼家の牛を牽ハ假初ら思養好し。え来あは夫婦は汝が外
 させる親族の死をふられ今や女の家を助て幸の越と祈ら。罪
 汝が御ところ罰ハ天の初ハ不脱とんとと由放さまじや。縛受
 ようこそ敦園らるる者ハハむひゆけむ。寛枉をひひゆけれ且兄が横死の
 ように受て胸塞り氣逼りて絶て一言由ゆひ釋と頭を低て居し。罪
 養又式四郎ハ障子のあまふ臥つるのやうと受てまじく致さる人乃
 ここの測がたふりさるるものあんと懼と惑ひ疑ふの。當下小動ハ
 良人の後方居らる。捕の兵士あまうとやう。若者ハ沈む村り。
 ありと後らりるりけん。善とも悪ともそのつらまむと行む。この
 是の後の悪の世のあはれむと加辨この十日をうり初の日より。
 養式四郎が幸中とやんあて。あひまうまひひはる夜とあ

日とるく看病と背門へ出るといふあはふ。何の暇ありん。この
 志死に仍とせむとえ来ま見養曾七刀祢が。このあはる。よはははの
 越と。この由同考あつる。分りあはるんと。いせも果む兵士の眼を
 睜じ。身小罪のあまふと。若者ハハ口を併て一言半句も辨らぬ。女の
 陳耐音長。汝はさ。汝が親も罪科曾者ハと。等。いづれと式四郎ハ
 中風と物り。と。この腰がえ。と。いづれと。若者ハハ
 首伏の越ふ。罪う。と。いづれと。いづれと。若者ハハ
 曾者ハをい。縛め。被黄牛と牛菰屋。と。牽。して。瓢の酒。箱籠の
 乾魚。と。女。字。平。木。が。祈。る。隨。鞍。坪。み。振。着。さ。せ。て。牛。と。若。者。平
 小牽。と。若者ハを引。支。て。文。法。所。へ。と。ま。去。け。り。の。り。し
 若者。村長。と。ひ。の。つ。つ。と。社。客。を。と。駈。傳。へ。その。夜。より。式。四。郎。が。家。を

武家書 卷三

うち目衛アそいと嚴ふおとれ小動のいほじく胸けう死雲うさうのり
^{おの}親の大病夫の厄難いづまらふふりかゝる涙の雨のをとらり。打ち
^あてて目を送る枯魚の市ふ水を湛へ焼目「亀を沈み放つ。後悔とてふ
^うらむがけんがらんとなふ憑むごの神仏の外ありとて食と断水と浴
^あ建治元年四月九日青砥左衛門尉藤綱この人沈子村ある牽牛星
^あ腰越の農夫なるを八と獄舎より引出は「所人も女字平ホを召して
^あおのく坪の内あり。かくて藤綱文注所著座してまづ罪人なるを八を近
^あははは六年未だ見を曾七と同席く活業するふ所の有る。沈子村を

立去らる。と向ふ曾八の両手を背へ拵揚られおそくまうさう某
^あ沈子村おとらむらりゆるの兄を尋る七と練り移るを之。嫂も女の大岡
^あ村あて夫三四人をうえてゆか。その夫との命天折せざるは「さればこの婦の
^あ夫も崇ふとそらんと。彼此人ゆり。ある夜見一ト「びやの女と着恋し
^あより。忽地よこら慈い媒妁あよりてまゝ取入んとしゆと某よりぬるの
^あ「いふ言と場と練ゆひが。衆者七絶てうけしむ。そのうち女このを
^あ愛てあり其心恨も。強言隙るりしうが。己か兄そのまゝ漏れその言願ふ
^あ慈さん。まゝより胞兄才睦く。己を己と取給む。某兄は「別「別
^あ腰越村よ赴きゆ。と毒さんば青砥穿てうち息改まらば。又何れよ兄と青
^あ牛を備へ返さす。刺兒を猛教て黄牛と奪ひとり。竊み死骸を青牛
^あ負して海邊へ牽出。彼亡骸を沈んとまゝする。いふよりあふさすせいふ

見ゆるふ雇へて遣へる人の中けるけしき。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 の程どひゆくけしきの罪を数へらま。かゝる因縁ゆひぬ。婢の爲は骨肉を裂れ
 たりといひながら。某不悔して去年より兄は遠難なるを科して着削らる
 とも。その一点なるも恨む。牛を盗む。兄を殺し。その罪言ふよりして
 罪あり。その死をさす。決して伏せ。ゆびとみ。その言結日ある
 ほど。雄を殺してを笑えける。青砥まづ。ふこ。其夜。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 彼青牛を殺す。それ見たり。青砥まづ。ふこ。其夜。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 と。いづ。その目。暮る。と。若宮巷路へ。その
 のら。親又の看病。い。ま。ま。今。彼翁。吉凶。と。果ぬ。青砥声。と。激して。縦。又。が。看病。十。日。

暮る。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 どの女房と遣へ。女が妻をさす。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 の。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜。あつひつゝそのみと空く暮る甲夜
 と。いづ。その目。暮る。と。若宮巷路へ。その
 のら。親又の看病。い。ま。ま。今。彼翁。吉凶。と。果ぬ。青砥声。と。激して。縦。又。が。看病。十。日。

撰抄 卷三

三

多うれなる為体ハ摸るゑはして傷ふ牛の脊上よきふくけり。と云ふ
青砥也。終て着る七の何の為。彼青牛を賣んとし。その名
まふと。と聞か。中女をて。こまなりぬ。比見の公卿とやん。雇ま
七里の濱より。彼翁が捨る貝と青牛。不買。差宮巷路へ送り。由
しうける。不翁。良人の相を認て。遠く。と。禍あ。と。あを捨よ。と。あれ
し。し。う。む。う。ひ。て。この。月。牽。る。青。牛。を。賣。んと。あ。ふ。の。つ。れ。る。お。着。る。八
不撞見て。直さ。不彼。ふ。と。せ。は。良。人。が。物。結。を。咬。付。し。と。し。青。砥。又。空。
あ。ら。對。ひ。は。い。又。い。は。て。着。る。八。が。見。を。殺。く。その。死。骸。を。海。へ。沈。ん。為。す。牛。
負。せ。よ。と。ま。り。る。眼。前。に。と。や。り。い。と。も。あ。ら。う。あ。れ。る。あ。ら。と。や。と。猪。
ま。で。字。平。強。ぐ。気。色。あ。く。心。破。ぐ。ゆ。い。も。い。う。と。眼。前。よ。ん。は。の。ゆ。い。
さ。う。の。が。ら。着。る。八。既。見。を。殺。て。こ。ま。と。牛。不。負。せ。正。その。さ。う。海。へ。沈。ん

為る。と。む。の。谷。捨。ん。為。る。と。り。ま。う。だ。の。何。の。為。死。骸。と。牛。不。負。ふ。は。ま。
これ。の。越。ハ。賢。察。の。ぶ。と。い。ふ。と。と。ま。れ。れ。青。砥。咬。て。冷。笑。ひ。現。汝。
才。長。ら。る。の。の。あ。り。は。ん。ま。の。右。の。食。指。を。布。の。裂。り。に。包。し。り。そ。の。い。り
る。の。た。ど。と。同。が。字。平。巻。を。膝。ふ。膝。に。し。し。こ。ま。の。日。目。黒。黧。と。破。と。ん
と。指。を。又。と。ま。り。指。を。傷。て。ゆ。い。の。當。下。青。砥。ハ。几。を。備。ふ。く。中。り。ゆ。と。れ
の。女。字。平。汝。ホ。が。ら。ん。所。也。又。甚。胡。乱。あり。着。る。七。既。見。貝。の。翁。不。買。論
さ。ま。て。牽。る。青。牛。を。賣。んと。し。と。い。ふ。と。ら。途。ふ。着。る。八。不。撞。見。て。その
牛。と。ま。り。し。り。入。り。の。着。る。八。が。畧。棄。し。る。あ。の。と。と。ま。り。又。その。不。汝。ホ。が
と。ま。り。て。所。ま。り。と。せ。と。え。い。う。お。着。る。七。の。療。治。ゆ。ん。や。届。る。飲。と。聞。し。不
い。の。死。に。時。と。接。し。と。い。う。と。え。い。ゆ。ゆ。も。ふ。業。歎。の。ま。せ。ゆ。と。と。意。か。今。す。の
夾。衣。と。い。ふ。が。業。種。の。白。ひ。の。り。と。ま。り。又。この。夾。衣。縦。兩。不。濡。し。と。い。ふ。

被りて一夜さ半うすに被るが半うすの乾つて。まづもかこの衣ころもは濡ぬる。この西
 水のまのたて全く潮水うしほに浸ひりあだ。この三さんの疑うたがはこゝろあり。かきくご
 字平あらいが推量おしりやうのごとく。若衆わかしゅへの兄あにが死あつ骸かみと牛うしふおのた聲こゑ「海うみへ沈おんと潜ひる
 とも。既いまも海うみへ沈おするもの紙かみ。又引揚ひきあげ牛うしふ頃ころ「更さらも谷やを捨すんとさぶらふ
 どのの岡おか不縁ぶ縁由よしあはじ。まじのふらふらふや。審つまじりしきどりの審つまじりしきと告つ
 よと推おしけしつ積ありてお女の臥ふして低ひて息いきまで字平あらいの世よ由よし強しかど腰こし越こえたり
 沈おむ村むらを道みちの程ほども遠とほざれば情こころあるものまじりして業わざとのまじりしてまじり
 飲のみて潮水うしほに浸ひりしと浸ひるるとかまらぶこまらぶと。このもまらぶは隙ひまさ
 まらぶ青砥あせと阿あとらち笑わらひ汝あなまらぶと問とはははまらぶ別べつは問と人ひとあり。雅みや
 あり。若宮わかしむ巷路きやうじゆへ使つかへて貝かいの翁おきなをおとす。このまらぶをまらぶ雅みやを廊りやうよりまら
 ぶ。貝かいの翁おきなありてゆと若わか青砥あせと使つかへてその幸さいある。まらぶこまらぶこまらぶ。

雜ま多たころをわて遠とほくまらぶゆく程ほど不翁ぶおきなの坪つらの内うちへまらぶ。當下たうげ青砥あせと
 孫まご徳とくハ貝かいの翁おきなと筆子ふでこの母ははやう不ふ招まはは。目今いま使つかはせし。つせんまらぶこまらぶ
 ねらう入いる飲の悦えつせり。まらぶ由よし翁おきなの賣うとせりて名なかまらぶ。けひの必かなら招まはさよはを
 ちをまらぶて外そとにや。あまらぶ不ふ赤あかくゆと稱せう賢けんとれば公こう親しんより微笑わらえ。ゆる
 べとまらぶとゆとも。曩な昔むかし不序ふしよ所ところなる親おや親おや推おへまらぶ。まらぶけひの文ぶん注ちゆ所ところあり
 如此ごとの罪人つみびとと鞆たづ問とせし。は弱よわ刀た絲いと原はらのおか。はひらひら。其そのこれと
 して人の冤屈えんくつを救すくふ為ために推おへてゆといふ青砥あせと使つかへて。まらぶかまらぶ問とはへ
 とあり。翁おきなの比ひ七しち里りの濱はまより。貝かいと負おむ牛うし飼かひのたのこを何なにれ雅みやとまら
 ぶ。飲のむ名なもも里さとももまらぶ。まらぶまらぶまらぶ。まらぶまらぶまらぶ。まらぶまらぶ
 のちの女めと噂うわさをまらぶ。まらぶまらぶまらぶ。まらぶまらぶ。まらぶまらぶ。まらぶまらぶ
 目めく沈お吟ん。まらぶまらぶ牛うし飼かひ不ふ禍わざはひあはさよはと昔むかしにまらぶを捨すてし。まらぶ

けるるをそと向が翁をてこのれ疑ひあぶさるる。某彼牛艱が骨相を知て
 此の女難の相あり。その禍方小女房より起る由をあるといふも。うちつひの
 告ぐる。これを捨よといひしうて。扱へ扱野。扱男鹿の扱のぞ。只そそその初
 めて。ころのふあふ。めめ妻より。これその妻とまといひしうのそ。あつるふ彼が
 女房の名を。とめと呼らる。まうまう。赤あてゆら。やとのふ青。あておりの
 ども。堂と丁と拍翁の。説相神の。まう。とを。あつる。何。まう。とめめ青牛
 の。まう。と。まう。と。その牛と賣らる。その。死。と。禍。あつる。及
 ぶ。と。翁。幸。小。寛。屈。と。救。んと。まう。あつる。見。る。亦。あ。ぶ。審。小。球。ゆ。彼。如
 ろ。の。彼。牛。艱。が。妻。専。女。と。赤。の。牛。艱。を。七。が。雇。夫。小。字。平。と。い。ふ。の。こ。これ。の
 義。者。七。が。才。者。を。八。と。ひ。と。く。ふ。指。示。せ。ば。翁。つ。と。と。ん。く。り。て。現。善。惡。邪
 正。面。は。見。る。廷。尉。由。た。く。ら。猜。一。の。あ。る。は。某。の。あ。る。日。例。の。と。く。由。井。濱。の

不。と。り。小。出。て。貝。と。拾。ひ。つ。不。圖。頭。と。廻。じ。て。後。方。を。え。る。ふ。只。今。瀕。死。せ。し。こ
 ろ。に。浪。よ。う。ち。う。せ。さ。る。死。人。あ。り。救。ふ。く。の。救。り。ん。と。ま。ひ。ら。ば。ど。り。て。これ。を
 揚。口。と。ひ。く。して。丹。葉。と。塗。つ。る。ふ。は。中。小。物。あ。り。と。ん。人。は。教。え。ら。る。あ。や。と
 ろ。ひ。ぶ。後。の。澄。池。ふ。こ。ま。と。懐。赤。持。ち。お。忽。然。と。して。主。の。於。青。牛。西。の。く。こ
 う。の。い。で。あ。れ。る。某。の。牛。を。と。て。瀕。死。の。人。の。い。ぬ。比。若。宮。巷。路。の。宿。所。や。で
 雇。り。牛。艱。の。と。こ。の。あ。る。の。水。を。と。め。て。ま。る。から。い。と。痛。く。も。涙。は。く。て。救。る
 へ。ん。え。ん。孫。ど。の。せ。め。て。水。を。吐。せ。ん。と。ま。ひ。て。牛。の。背。上。小。死。骸。を。臥。じ。牛。乃
 赤。小。任。つ。且。く。時。を。移。さ。ん。為。ふ。又。貝。を。拾。ひ。程。ふ。忽。然。牛。の。往。方。と。ま。る。彼
 宿。所。へ。告。げ。ん。あ。の。の。名。と。い。ふ。ま。う。ま。う。が。れ。ん。と。い。は。只。顧。牛。を。追。追。ん。と。く。
 十。あ。く。申。し。る。ま。る。わ。ら。ん。驟。雨。鏡。は。降。る。げ。ば。老。人。の。う。ひ。の。ま。ら。ん。ら。ん。と。分。れ。て
 牛。を。恨。て。捨。ち。の。が。宿。所。へ。め。り。ゆ。い。さ。ま。う。る。ふ。け。り。也。弱。刀。紵。原。の。物。結。ぬ。ふ。を

腰越村のるる者へとの見を敷てその死骸を牛へ海へ
 十^二とせ^三て度^四学^五の^六獄^七舎^八を^九繋^十つ^{十一}と^{十二}軟^{十三}を^{十四}全^{十五}く^{十六}寛^{十七}狂^{十八}る^{十九}に^{二十}それ^{二十一}が^{二十二}見^{二十三}
 とる^{二十四}枚^{二十五}の^{二十六}孫^{二十七}ども^{二十八}せ^{二十九}めて^{三十}才^{三十一}を^{三十二}救^{三十三}ん^{三十四}為^{三十五}ふ^{三十六}推^{三十七}送^{三十八}て^{三十九}ゆ^{四十}と^{四十一}五^{四十二}十^{四十三}を^{四十四}演^{四十五}説^{四十六}し^{四十七}それ^{四十八}らん^{四十九}仲^{五十}
 牛^{五十一}糞^{五十二}が^{五十三}口^{五十四}中^{五十五}の^{五十六}あり^{五十七}物^{五十八}ゆ^{五十九}と^{六十}蛤^{六十一}の^{六十二}見^{六十三}と^{六十四}ち^{六十五}合^{六十六}せ^{六十七}る^{六十八}を^{六十九}懐^{七十}く^{七十一}り^{七十二}出^{七十三}て^{七十四}孫^{七十五}綱^{七十六}
 進^{七十七}ま^{七十八}れ^{七十九}が^{八十}青^{八十一}砥^{八十二}の^{八十三}見^{八十四}と^{八十五}ち^{八十六}笑^{八十七}ま^{八十八}り^{八十九}つ^{九十}ふ^{九十一}翁^{九十二}の^{九十三}見^{九十四}
 の^{九十五}内^{九十六}の^{九十七}の^{九十八}人^{九十九}の^{一百}指^{一百一}の^{一百二}あ^{一百三}ら^{一百四}と^{一百五}と^{一百六}同^{一百七}バ^{一百八}貝^{一百九}の^{二百}翁^{二百一}の^{二百二}所^{二百三}の^{二百四}聰^{二百五}察^{二百六}を^{二百七}感^{二百八}佩^{二百九}し^{三百}何^{三百一}と
 ま^{三百二}ら^{三百三}と^{三百四}ま^{三百五}の^{三百六}い^{三百七}實^{三百八}ま^{三百九}ど^{四百}指^{四百一}を^{四百二}ゆ^{四百三}と^{四百四}回^{四百五}ま^{四百六}の^{四百七}ぬ^{四百八}ふ^{四百九}青^{五百}砥^{五百一}は^{五百二}左^{五百三}右^{五百四}に^{五百五}入^{五百六}り^{五百七}て
 と^{五百八}や^{五百九}も^{六百}女^{六百一}と^{六百二}字^{六百三}平^{六百四}を^{六百五}結^{六百六}め^{六百七}よ^{六百八}と^{六百九}下^{七百}知^{七百一}と^{七百二}る^{七百三}あ^{七百四}ぞ^{七百五}難^{七百六}色^{七百七}ホ^{七百八}ま^{七百九}り^{八百}鬼^{八百一}て^{八百二}も^{八百三}女^{八百四}字^{八百五}平^{八百六}と^{八百七}取^{八百八}
 押^{八百九}鞣^{九百}と^{九百一}縛^{九百二}ま^{九百三}ら^{九百四}も^{九百五}女^{九百六}の^{九百七}面^{九百八}色^{九百九}藍^{一千}の^{一千一}如^{一千二}く^{一千三}肌^{一千四}膚^{一千五}の^{一千六}栗^{一千七}の^{一千八}こ^{一千九}ろ^{二千}ろ^{二千一}て^{二千二}只^{二千三}戦^{二千四}慄^{二千五}の^{二千六}こ^{二千七}
 字^{二千八}平^{二千九}の^{三千}声^{三千一}と^{三千二}ち^{三千三}ま^{三千四}其^{三千五}ホ^{三千六}え^{三千七}外^{三千八}罪^{三千九}は^{四千}老^{四千一}惚^{四千二}ら^{四千三}翁^{四千四}が^{四千五}根^{四千六}は^{四千七}正^{四千八}を^{四千九}信^{五千}じて^{五千一}得^{五千二}ぬ^{五千三}人^{五千四}の^{五千五}
 理^{五千六}ひ^{五千七}と^{五千八}叫^{五千九}び^{六千}ら^{六千一}ば^{六千二}青^{六千三}砥^{六千四}の^{六千五}扇^{六千六}を^{六千七}ち^{六千八}り^{六千九}ら^{七千}海^{七千一}して^{七千二}信^{七千三}と^{七千四}盼^{七千五}へ^{七千六}毒^{七千七}患^{七千八}ら^{七千九}る^{八千}匹^{八千一}丈^{八千二}つ^{八千三}て^{八千四}の^{八千五}

陳^一ぢ^二る^三や^四汝^五も^六女^七と^八密^九通^十由^{十一}井^{十二}の^{十三}濱^{十四}迄^{十五}まで^{十六}着^{十七}る^{十八}七^{十九}と^{二十}猛^{二十一}殺^{二十二}死^{二十三}骸^{二十四}を^{二十五}海^{二十六}へ^{二十七}投^{二十八}入^{二十九}て
 更^{三十}も^{三十一}着^{三十二}る^{三十三}へ^{三十四}と^{三十五}寃^{三十六}て^{三十七}罪^{三十八}あり^{三十九}後^{四十}を^{四十一}と^{四十二}せん^{四十三}と^{四十四}謀^{四十五}り^{四十六}正^{四十七}澄^{四十八}池^{四十九}既^{五十}不^{五十一}分^{五十二}る^{五十三}言^{五十四}よ^{五十五}は^{五十六}嗔^{五十七}頭^{五十八}に
 食^{五十九}指^{六十}の^{六十一}着^{六十二}る^{六十三}七^{六十四}が^{六十五}口^{六十六}中^{六十七}の^{六十八}残^{六十九}る^{七十}翁^{七十一}の^{七十二}翁^{七十三}と^{七十四}獲^{七十五}て^{七十六}ま^{七十七}ら^{七十八}ち^{七十九}て^{八十}入^{八十一}り
 這^{八十二}奴^{八十三}ら^{八十四}打^{八十五}ぶ^{八十六}ん^{八十七}び^{八十八}ら^{八十九}ん^{九十}の^{九十一}実^{九十二}と^{九十三}吐^{九十四}んと^{九十五}敷^{九十六}圍^{九十七}て^{九十八}字^{九十九}平^{一百}の^{一百一}女^{一百二}を^{一百三}鞭^{一百四}と^{一百五}る^{一百六}と^{一百七}二百^{一百八}ふ^{一百九}て
 此^{一百一十}彼^{一百一十一}共^{一百一十二}苦^{一百一十三}痛^{一百一十四}は^{一百一十五}堪^{一百一十六}ど^{一百一十七}も^{一百一十八}女^{一百一十九}ま^{一百二十}づ^{一百二十一}首^{一百二十二}伏^{一百二十三}く^{一百二十四}こ^{一百二十五}ろ^{一百二十六}の^{一百二十七}字^{一百二十八}平^{一百二十九}と^{一百三十}去^{一百三十一}年^{一百三十二}の^{一百三十三}秋^{一百三十四}ら^{一百三十五}密^{一百三十六}通
 せ^{一百三十七}り^{一百三十八}ま^{一百三十九}ら^{一百四十}ん^{一百四十一}ど^{一百四十二}も^{一百四十三}良^{一百四十四}人^{一百四十五}着^{一百四十六}る^{一百四十七}七^{一百四十八}を^{一百四十九}叙^{一百五十}せ^{一百五十一}ま^{一百五十二}ら^{一百五十三}字^{一百五十四}平^{一百五十五}一^{一百五十六}巳^{一百五十七}の^{一百五十八}正^{一百五十九}為^{一百六十}は^{一百六十一}て^{一百六十二}ま^{一百六十三}ら^{一百六十四}ち^{一百六十五}一^{一百六十六}切^{一百六十七}を^{一百六十八}ん
 と^{一百六十九}の^{一百七十}又^{一百七十一}字^{一百七十二}平^{一百七十三}を^{一百七十四}鞭^{一百七十五}と^{一百七十六}る^{一百七十七}と^{一百七十八}二百^{一百七十九}ふ^{一百八十}ら^{一百八十一}び^{一百八十二}て^{一百八十三}堪^{一百八十四}ら^{一百八十五}ず^{一百八十六}と^{一百八十七}り^{一百八十八}ら^{一百八十九}ま^{一百九十}ら^{一百九十一}七^{一百九十二}
 彼^{一百九十三}青^{一百九十四}牛^{一百九十五}を^{一百九十六}才^{一百九十七}着^{一百九十八}る^{一百九十九}へ^{二百}と^{二百一}く^{二百二}後^{二百三}黄^{二百四}牛^{二百五}只^{二百六}一^{二百七}頭^{二百八}ふ^{二百九}り^{三百}と^{三百一}り^{三百二}て^{三百三}其^{三百四}ホ^{三百五}俄^{三百六}頃^{三百七}は^{三百八}才^{三百九}の^{四百}眼^{四百一}
 と^{四百二}ら^{四百三}ら^{四百四}ら^{四百五}の^{四百六}女^{四百七}と^{四百八}ら^{四百九}ぐ^{五百}別^{五百一}れ^{五百二}ん^{五百三}と^{五百四}の^{五百五}う^{五百六}と^{五百七}ま^{五百八}ら^{五百九}着^{六百}る^{六百一}七^{六百二}が^{六百三}黄^{六百四}牛^{六百五}を^{六百六}牽^{六百七}て
 村^{六百八}の^{六百九}由^{七百}と^{七百一}傳^{七百二}へ^{七百三}使^{七百四}ら^{七百五}る^{七百六}由^{七百七}井^{七百八}の^{七百九}濱^{八百}迄^{八百一}まで^{八百二}埋^{八百三}伏^{八百四}し^{八百五}背^{八百六}後^{八百七}より^{八百八}走^{八百九}り^{九百}ぬ^{九百一}り^{九百二}て^{九百三}咬^{九百四}を^{九百五}拵^{九百六}へ
 ま^{九百七}ら^{九百八}ら^{九百九}誤^{一千}て^{一千一}右^{一千二}の^{一千三}食^{一千四}指^{一千五}を^{一千六}彼^{一千七}が^{一千八}口^{一千九}中^{二千}へ^{二千一}突^{二千二}入^{二千三}し^{二千四}ら^{二千五}ば^{二千六}着^{二千七}る^{二千八}七^{二千九}昔^{三千}は^{三千一}堪^{三千二}ど^{三千三}某^{三千四}が^{三千五}指^{三千六}を^{三千七}



喉断て火とも。まよがれおとせど終つて猛殺して海へ投入せしむるべしと
 その夜辰者七が宿所へ赴き妻女と樂を取らう。比る辰八が牽きて
 腰越村へ赴きうらうの青牛辰者七が死骸を盗んで取り去る。妻女は
 某これを見て一旦の勢に忿地らう計を生してその夜腰越村へ走りぬ
 竊ふ式四郎が宿所と張ふ牽きて家と坐る。辰者七が黄牛式四郎が牛蒡屋
 小あつこふまきく候とゆへに又遠く沈子村へ走りぬ。辰者七が妻女小枝
 密とあせ。彼とあてて辰者七と寛あはの為小仇と報るといふを志として
 辰者七が赤帯を押領し。妻女を妻あせんと謀りぬ。されども女は某と後小園
 意あるものもひして辰者七を殺せしめあふて只某が小腫は祈せしむと
 ちらもあく首伏せたり。青砥受てまがる辰八が縛と釋ゆ。まよがれ辰八が
 ようこの祈せらるる辰八が辰者七が被る衣とあはせて辰八が潮に浸るるが

如。これのるる辰八が死骸を奪うる辰八。全く水と吐せんとせしめの下なる辰八
 小園の除疑と死と夥あれるその證據と獲る辰八が邪正を決けしむる辰八の
 翁が贈りて奸夫淫婦をあはしぬ。字平八元外雇夫あて主役の辰八と
 ども。犯す所の罪のとも怪る辰八。又も女は字平とあひ辰者七を殺せしむるとも。
 辰八は字平と密通し。不善の情欲より事起りて辰者七を殺せしむるとも。その罪は字
 平と又何ぞ異なるらん。辰八亦決して放らば此彼ゆゑ共お近日由井嶺へ引出して
 殊裁せしむる辰八の辰八の罪を羅して養父の看病し。奸夫淫婦が首刎
 らる日。両頭の牛と牽て彼知へ辰八は字平も女も有と牛の角あけて後の奸
 淫と懲し。且辰者七が冤魂を慰めしむると。叮嚀し辰八も辰八も辰八も辰八も
 美女の細腰白刃とあせむ。房中此とりて樽為仇。奸夫の胸膈を
 辰八。晴裏人を食ふと如虎彪。兄弟播は蘭ぐ罾越状。貝公指と拾ふ

玉龍の湫。教。このころに窮達塞翁が馬世間斯の如き有牽牛。
 判。不。て。若。者。八。小。舟。の。暇。を。の。れ。ば。轍。魚。の。湖。水。を。の。り。か。如。く。天。は。飲。み。
 地。は。喜。び。舞。舞。し。て。腰。越。村。へ。ま。る。ふ。小。動。の。昨。夜。よ。う。候。五。袖。由。朽。れ。
 なる。只。う。ち。は。泣。て。居。る。り。る。ふ。忽。地。良。人。か。恙。多。く。あ。ら。さ。れ。て。ぬ。る。の。そ。
 ろ。い。ご。この。目。より。式。四。郎。か。病。ひ。多。ひ。の。外。お。か。と。う。て。つ。ら。う。ふ。五。六。日。が。経。ふ。
 奉。復。し。て。け。り。こ。え。入。主。鶴。岡。の。大。神。貝。の。翁。ふ。ま。う。と。せ。の。ひ。て。若。者。八。か。
 寛。枉。と。救。ひ。治。り。が。死。親。の。病。著。ま。差。し。の。み。る。ぶ。と。そ。又。子。ま。婦。信。
 心。併。除。す。生。涯。貝。の。翁。の。思。を。忘。ま。ご。見。養。る。七。か。菩。提。を。叮。嚀。し。
 吊。ひ。く。べ。め。ご。死。す。の。の。こ。う。ち。統。て。その。家。る。が。く。榮。け。る。と。ご。

吉原藤綱模稜案卷之三終

昔も昔も昔も昔も
 けりて
 一平一
 げりて



新
書
集